

BYD 電気バス、和歌山県内で初導入

高野山の世界遺産*¹ エリア、“南海りんかんバス 高野山内線”で「K8」運行開始
最新 PHEV「BYD SEALION 6」で行く、横浜～高野山往復 1,200km ツアーも実施

- 4/24 から南海りんかんバス 高野山内線で運行を開始した BYD 電気バス「K8」は計 6 台
- 計 6 台の「K8」*²のうち 1 台は、記念すべき日本導入 500 台目*³の BYD 電気バス
- BYD の「地球の温度を 1℃さげる」と、南海りんかんバスが属する「NANKAI グループ環境ビジョン 2030」双方の企業理念が合致。日本の脱炭素社会の実現と地域環境保全に両社で貢献。

*¹ 2004 年、「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成資産の一つとしてユネスコの世界遺産に登録された。

*² BYD 「K8」は、日本の路線バス規定の大型バスの諸条件に合致した電気バス。

*³ 日本国内でナンバーを取得し、営業運行を始めたバスとして 500 台目。



BYD の商用車部門を担当する BYD JAPAN 株式会社（本社：神奈川県横浜市、代表取締役社長：劉学亮、略称：BJ）が、南海りんかんバス株式会社（本社：和歌山県橋本市、取締役社長：和田純一）に納車した BYD の大型路線電気バス（以下：EV バス）「K8」計 6 台が、4 月 24 日（金）から、南海りんかんバスの高野山内線での営業運行を開始しました。和歌山県内での BYD EV バスの導入は初となります。

今回、営業運行を始めた計6台の「K8」には、2015年に京都で営業運行を開始したBYD EVバスの1号車から起算して500台目に当たるEVバス（自動車登録番号標は「585」）が含まれるほか、「高野山（583）」の語呂に合わせた希望ナンバープレートを付けた、遊び心溢れるEVバスも同時に運行を始めています。

当日は、高野山の麓駅である「極楽橋」駅と大阪「なんば」駅までを約1時間半で結ぶ、南海電鉄^{*4}の特別列車「GRAN 天空」の新型列車の運行が開始したことを受けて、初便となる「GRAN 天空」の到着^{*5}に接続するバスに記念すべき営業運行500台目のBYD EVバスが配車されました。EVバスの出発前^{*6}には出発式が行われ、南海りんかんバス株式会社（以下：南海りんかんバス）と納入元のBYD JAPAN 株式会社（以下：BYD JAPAN）双方の役員と運転士が参加して、今後の安全運行を祈念しました。

*4 正式名称：南海電気鉄道株式会社（本社：大阪府大阪市）

*5 GRAN 天空1号は、大阪「なんば」を9:00に出発、「極楽橋」に10:30着。バス停がある「高野山駅前」までは高野山ケーブル（南海鋼索線）で約7分。

*6 最短でGRAN 天空1号の到着と高野山前駅で接続する「奥の院行き」のバス出発時刻は10:53

*5,6 2026.4.24 現在の南海電気鉄道のダイヤグラムによる



■ 南海りんかんバスの環境への取り組み

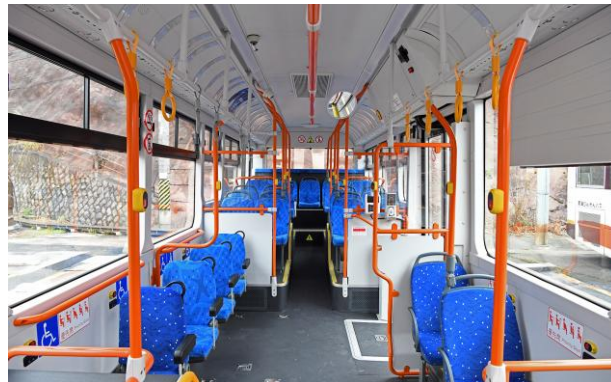
南海りんかんバスは、「安全性の見える化」「地域と連携した安全推進」というNANKAIグループの運輸安全マネジメントを確実に実行すると共に、「NANKAIグループ環境ビジョン2030」という環境対策を掲げています。今回のBYD EVバスの導入に際し、同社の和田純一取締役社長は、「二酸化炭素を出さないEVバスを導入することで、信仰の聖地である高野山の環境の維持につながる。」「高野山は南海グループの沿線を代表する地域でもあるので、環境経営をアピールするのに最適と判断した。」「BYDのEVバスは、既にNANKAIグループ内でも導入実績があり、航続距離や冬季には-15°Cにもなる高野山での使用に耐え得る性能を重視した。」と、BYD EVバスの導入の背景を語りました。

■ 南海りんかんバス 高野山内線

BYD「K8」の営業運行が始まった南海りんかんバス高野山内線は、世界遺産にも指定された数多くの歴史的建造物や参詣道などを含む高野山エリアを循環します。2025年は、大阪・関西万博

(2025年4月13日～10月13日)の開催もあって、当地への年間訪問者数は、約150万人^{*7}にも及ぶ人気の観光エリアになっています。このエリアには、「壇上伽藍(だんじょうがらん)」、「金剛峯寺(こんごうぶじ)」、「金剛三昧院(こんごうさんまいいん)」、「高野山町石道(ちょういしみち)」、「奥之院(おくのいん)」など、歴史的価値の高い文化遺産に加え、周囲には宿坊を兼ねた117の寺院などが点在しています。BYD「K8」は、「高野山駅前」から「奥の院前」までを結ぶルートを循環し、来訪者にクリーンで静かな移動体験を提供します。

*7 高野町広報誌より



■ BYD EV バスの特徴とこれまでの経緯

BYD の EV バスは、2015 年から日本への導入が始まり、今年で 11 年目を迎えました。いまでは 3 モデルの EV バス (小型 : J6、中型 : J7、大型 : K8) を取り揃え、そのすべてが、日本の路線バスに求められる法的要件及び基準に合致しています。現在 BYD EV バスは、国内を走る EV バスではトップシェアを誇り、北は北海道から南は沖縄までの幅広いエリアで、市民の重要な足として日々活躍しています。

BYD EV バスの特徴は、走行中に一切、CO₂ (二酸化炭素) を排出しないクリーンな走りと、走行時はモーター特有のパワフルでエンジン車のような走行ショックが少ない滑らかな走り、そして、BYD の技術の粋を集めて生産された、発火の恐れが無く、安心・安全な LFP (リン酸鉄リチウムイオン) バッテリーを搭載する、公共交通にはもっとも適したクリーンモビリティであることです。また、段差のない低床フロアと後方まで続くフラットな床面により、乗降時及び車内での移動が安全に行えるようになりました。このように BYD EV 路線バスシリーズは、さまざまな長所を備えていることから、2015 年の日本初導入以降、数多くの全国のバス事業者様から高く支持されています。

■ BYD の企業理念

「地球の温度を 1°C さげる」という企業目標を掲げる BYD は、長年に亘って、公共交通の電動化 (EV バス) による社会有益性を実証してきました。今回の高野山での BYD EV バスの運行開始は、BYD と「NANKAI グループ環境ビジョン 2030」の目標達成に邁進する南海りんかんバス、双方の企業目標が合致したことで実現しました。今後も BYD は、日本の雄大な自然、そして、日本のあらゆる地域への環境負荷の低減と、多くの利用者に快適で安全な移動を提供できるよう、さらなる企業努力を積極的に行ってまいります。

■ 「BYD SEALION 6」で訪ねた、往復 1,200km の旅

今回の記念すべき BYD EV バスの営業運行開始 500 台目の運行開始と、南海りんかんバスの環境への取組みを実際に体験することを目的として、発売間もない BYD 乗用車部門の最新ハイブリッドモデル「BYD SEALION 6」シリーズによる往復 1,200Km の取材ツアーを実施しました。

燃油高の長期化も予想される昨今、長い航続距離を誇る「SEALION 6」は、発売以降、前輪駆動モデルから導入し、今年 1 月末からの本格的な販売開始以降、これまでに 1,000 台を超える受注を得ています。

3 月末からは待望の四輪駆動モデルが追加導入されたことで、四輪駆動ならではの高い走行安定性に加え、とくに四輪駆動が購入の絶対条件である降雪・寒冷地区での EV 需要にも、これまで以上の安心感でお応えできる BYD のもっとも新しい新エネルギー車^{*8}です。

^{*8} 新エネルギー車 (NEV = New Energy Vehicles) : 電気自動車、プラグインハイブリッド、燃料電池自動車で構成される電動車の総称。(HV は含まない)



■ 長距離走行で実証した「SEALION 6」の優れた快適性と高い走行性能

取材ツアー初日、横浜を出発した 4 台の「SEALION 6」は、首都高速～東名横浜 IC～御殿場の先からは最高速度 120Km/h で巡行可能な^{*9}新東名に入り、名古屋以西は名阪、その先からは、各車それぞれ自由な行程で最終目的地の和歌山・紀の川市まで目指しました。往路の途中から降雨に見舞われたものの、「SEALION 6」は、どっしりと安定した走りや多くの快適・安全装備に加え、消費燃料、疲労感も双方ともに少なく、無事に 500Kmの旅を終え、夕方までに最終目的地に到着しました。今回使用した車両は、昨年 12 月の発表以降、大きな反響を得ている後輪駆動の「SEALION 6」(2 台)と、3 月末から登録が始まった四輪駆動の「SEALION 6 AWD」(2 台)の計 4 台でのロングランツアーになりました。とくに四輪駆動は、常時四駆の特性を如何なく発揮できることで、気象状況に関わらず、常に安定した力強く、頼もしい走りが好評でした。

*9 120Km/h で走行できるのは一部の区間に限られます。



■ 2008年、世界で初めてPHEVを量産化したBYD

BYDは2008年、世界に先駆けてプラグインハイブリッド（以下：PHEV）モデルの量産化に成功して以降、18年以上に亘り、その独自の技術を磨き続けてきました。当初「DM」と呼ばれてきた同システムは、その後の弛まない技術革新の結果、同第四世代からは「DM-i」と呼称を変更。BYD PHEVシリーズの世界累計生産台数も約800万台^{*10}に達するほどになりました。このようにBYDは、電気自動車（以下：EV）だけでなく、PHEVでもパイオニア的な存在です。

*10 BYD 本社調べ

■ 「プラグインハイブリッド」という「ハイブリッド」

「BYD SEALION 6」は、ガソリンエンジンと電気モーターを併用するハイブリッド（以下：HV）車ですが、家庭では普通充電（DC 200V）、外出先などでの急を要する時には急速充電（DC 400V）の双方で車載バッテリーを充電できることから、PHEVと呼ばれるHV車に分類されます。エンジンと電気モーターを併用して走れるので、これまでの一般的なEVに対する航続距離や出先での急を要する充電への心配は一切不要になりました。

走行の主体をEV（電気）にしたことで、「SEALION 6」は、つねに最適な状況下でEVとして走り、最高速度160Km/hまで力強く加速します。EV（バッテリー）のみの走行では、後輪駆動は100Km、四輪駆動では90Kmの走行が可能です。一方、高効率の1.5リッターガソリンエンジンは、高速・無負荷状態では直接、駆動力として利用するほか、あらゆる領域で最適かつ効率よく発電用エンジンとして稼働します。「SEALION 6」が搭載する駆動システム全体としては、EVモードを備えたシリーズ・パラレル方式で、これにより後輪駆動の燃費は22.4Km/L、四輪駆動でも18.5Km/Lと、このサイズのSUVとしては、良好な燃費を実現^{*11}しています。

*11 ハイブリッド燃料消費率：WLTCモード

■ 2種類の高効率PHEV専用エンジンと卓越した走り

「BYD SEALION 6」シリーズは、後輪駆動、四輪駆動の双方に、世界でも他に類を見ない43.04%という高い熱効率を実現した1.5リッターのガソリンエンジンを搭載しています。ただし、よりパワフルかつ安定した走りへの期待が高まる四輪駆動には、同じ排気量でありながら、さらなる高出力が得られるターボチャージャー付のエンジンを搭載しています。これにより、エンジン出力およびトルク特性については、後輪駆動の72kW / 122N・mに対して、四輪駆動は96kW / 220N・mと、さらなる高出力化・高トルク化が図られています。



「BYD SEALION 6」シリーズは、高効率なエレクトリックハイブリッドシステム（EHS）で構成される「電気走行が主体」のHVシステムを採用しています。走行の大半を電気モーターが担うため、EVのように静かな走りとスムーズな乗り味の双方を実現しています。EVのみの走行では、後輪駆動の場合、満充電で100km^{*12}と、日常の移動ではほぼ電気のみでの走行できます。一方、長距離走行時には、ガソリンエンジンによる発電と一定条件下^{*12}では直接、駆動側にエンジンの出力を伝えることで、高効率な走行を実現。これまでのEVに対する心配事（航続距離や出先での途中充電のわずらわしさ）を払拭し、オーナーには快適かつ経済性に優れたEVライフを提供します。

*12 EV走行換算距離（等価EVレンジ）

■ 世界が認めたBYDのLFPブレードバッテリー

「BYD SEALION 6」の駆動用バッテリーには、高性能な「DM-i」システムにもっとも適した専用のLFP（リン酸鉄）ブレードバッテリーを搭載しています（搭載量：18.3kWh）。このBYDの技術的象徴でもあるLFPブレードバッテリーは、外部からの入力による内部ショートなどでも発火の恐れが極めて少ない安全性を有していることに加え、繰り返しでの過酷な高電圧充電にも十分耐え得る高い耐久性、今では多くのEVが採用する三元系リチウムイオンバッテリーのような希少金属^{*13}を用いないことによる高いコストパフォーマンスに加え、バッテリーの作動温度を最適に保つ最新のBMS（バッテリーマネジメントシステム）を併用することで、中国国内はもちろん、日本の自動車メーカーにもOEM供給するなど、世界的に高い評価と信頼を得ています。

*13 三元系：様々な配合パターンがあるが、主にはニッケル、マンガン、コバルトなどの希少金属を用いたバッテリーが車載用バッテリーに用いられている。BYDのLFPは、鉄とリンを主成分として構成されるバッテリーで、万が一の際でも熱暴走し難いことに加え、製造コストが安価などのメリットがある。

また、「SEALION 6」には、車両の補器類に電源を供給する12Vバッテリーにも、長寿命で安心・安全な「LFPバッテリー」を採用しています。2.2Kgと軽量かつコンパクトなこの12V LFPバ

バッテリーは、これまでの鉛バッテリーのように、作動中に水素を発生することが無いので、運転席の下に効率よく搭載しています。さらに、この LFP 12V バッテリーは、大容量の駆動用バッテリーと随時交信し、12V バッテリーへの補充電を行っています*14。これにより従来のクルマで経験したような酷暑・厳冬下での酷使や寿命による、急な（12V の）バッテリー上がりの心配が不要になるなどユーザーには大きな安心感を与えています。

*14 SEALION 6 には、多くの自動車が用いている鉛電池と異なる LFP（リン酸鉄リチウムイオンバッテリー）を採用しています。自社調べで 15 年の耐用年数があるこの 12V LFP バッテリーは、従来の鉛バッテリーに比べて 2.2Kg と軽量かつ、長時間駐車しても自然放電が少なく長寿命（鉛電池は 2~3 年毎に交換が必要）であることから運用コストの低減とメンテナンスの手間を省くことができます。この 12V LFP バッテリーを採用したことで、現在までに BYD は、鉛の使用量を 2 万 8000 トン削減しています。

■ 参考：高野山エリアの世界遺産

- 壇上伽藍（だんじょうがらん）

弘法大師が、最初に道場を開いた場所。鮮やかな朱色の「根本大塔」は高野山のシンボルと言われている。

- 奥之院（おくのいん）

弘法大師が、いまも深い瞑想（入定）を続けているとされる高野山最大の聖地。2km に及ぶ参道には歴史上の人物など 20 万基を超える墓碑が並んでいる。

- 金剛峯寺（こんごうぶじ）

高野山真言宗の総本山。日本最大級の石庭「蟠龍庭（ばんりゅうてい）」など美しい建築物と庭園がある。

- 金剛三昧院（こんごうさんまいいん）

北条政子が源頼朝の菩提を弔うために建立した寺院。世界遺産にも登録された宿坊がある。

- 高野山町石道（ちょういしみち）

麓の九度山から高野山へ続く古道で、道しるべとなる「町石」が立ち並ぶ信仰の道として知られている。

※本リリースの掲載内容は画像を含め、2026 年 5 月 11 日（月）現在の情報です。内容は変更になる場合がございますので、予めご了承ください。

本件に関するお問い合わせ：

BYD Japan Group お問い合わせフォーム：<https://byd.co.jp/contact/>